

研究タイトル:

「ない」ものを「ある」というために



| | | | |
|-----------------|---|---------|----------------------|
| 氏名: | 小田 昇平 / ODA Shohei | E-mail: | soda@numazu-ct.ac.jp |
| 職名: | 准教授 | 学位: | 修士(藝術) |
| 所属学会・協会: | 美学会、文藝学研究会、全国高等専門学校英語教育学会 | | |
| キーワード: | 美学、藝術学、観光社会学、精神分析、映画研究、ファッション研究 | | |
| 技術相談 提供可能技術: | <ul style="list-style-type: none"> ・ 美学・藝術学に関する研究 ・ 哲学・思想史に関する研究 ・ 観光学とくに観光社会学に関する研究 | | |

研究内容:

18世紀フランスの哲学者、コンディヤックの思想研究からキャリアをスタート、ジャック・デリダのコンディヤック論をきっかけに、現在は現代思想を中心に研究しています。現在の研究対象・興味関心は、ジャック・ラカンの精神分析理論、ロラン・バルトの言説、ゲオルグ・ジンメルは哲学・社会学理論、ウラジーミル・プロップの口承文藝学、シチュアショニスト理論やアナキズムです。作品や事例としては、セルジュ・ゲンスブール監督映画作品について、沼津の観光事例について、メゾン・マルタン・マルジェラのアクセサリからファッションについて、それぞれ研究しています。雑多に見えるわたくしの研究はしかし、「ない」ものを「ある」と言い張るためのメカニズムがその中心軸として屹立しています。いづれにしても、思想と、具体的な作品や事例とが、お互い分かちがたく作用しうるように、抽象と具象とを往還しています。

思想研究

18世紀フランスを代表する思想家、コンディヤックの思想を改めて読み直しました。同じくフランスの現代思想を代表するジャック・デリダの思想を手がかりとして、コンディヤックが展開する論理 *logique* が、じつはいわゆる論理とはかけ離れた論理である類比 *analogique* であることを示しました。

藝術作品研究

1976年に封切りとなった映画作品としての『ジュ・テーム・モワ・ノン・プリユ *Je t'aime moi non plus*』は、セルジュ・ゲンスブールが監督をつとめた初の長編映画です。本作品を上倉庸敬が提示する概念である「シーン」ごとに分析し、精神分析をはじめとする理論装置を援用、スキャンダラスなモチーフに満ちた本作品の読解をはかりました。「シーン」概念や諸藝術との関係も考察対象です。

観光社会学研究

観光においてわたくしたちは、風光明媚な地で地元老舗の名物料理に舌鼓、その地の歴史やその地を舞台とした作品に想いをさせます。みるべきモノをみて、食べるべきモノを食べ、知っておくべきコトを知る、経験すべきモノゴトの To Do リストは、観光客に期待させ、観光客の欲望をうみだします。「みたいものをみる」観光は、どのようにして成立するか。この問題について、難解な現代思想と沼津における事例とを照らし合わせて、具体的に示しました。

ファッション研究

ゲオルグ・ジンメルはアクセサリやモードについて思索を残しています。ジャック・ラカンの精神分析理論と、ロラン・バルトの主としてファッションに関連する言説とを参照し、ジンメルの「アクセサリについての補論」を補強、転移をうみだす機能をもつアクセサリ、そして転移をもたらすモードという視座をひらきました。

提供可能な設備・機器:

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |